

## 円安による農業への影響について

農 政 部

## 1 円安の農業への影響

このところの急激な円安による配合飼料、肥料・農薬等の農業用資材の価格への影響は現時点では出ていない。

なお、供給価格は変動しており、10月以降の動きとしては、輸入原料の国際相場の変動により、窒素肥料の多くが値下げされる一方、過去の原油価格の上昇を理由に被覆資材の一部が6%値上げされ、今後、農薬の一部についても値上げが行われる見込みである。

今後も、円安傾向が続いた場合には、一定の時間を経て、配合飼料、肥料・農薬等の農業用資材の価格への影響が出てくる可能性がある。

区分	現在の状況	今後の見通し
配合飼料 【価格改訂】 年4回	急激な円安による値上げの動きはなく、26年10～12月の全農の販売価格は、米国のトウモロコシの大豊作予想を受け、国際相場の大幅に下落したことから、3期ぶりに3.9%の値下げとなっている。	配合飼料業界関係者は、急激な円安に加え、10月以降、米国北部の寒波でトウモロコシのシカゴ相場が16%上昇していること等から、27年1～3月期は値上げが必要としている。
肥 料 【価格改訂】 年2回	急激な円安による値上げの動きはなく、先月の価格改定では、輸入原材料価格の低下により窒素肥料の多くが値下げされている。	今後、円安が続いた場合には、リン鉱石、カリ鉱石などの輸入原料価格の上昇が見込まれるが、肥料の製造に必要な原油の価格が下落しているため、直ちに製品の値上げにはつながらない見込み。
農 薬 【価格改訂】 年1回	急激な円安による値上げの動きはないが、12月に過去の原油価格の上昇を反映して、石油を主原料とする製品のの一部で値上げが行われる見込み。	値上げ要因は、メーカーの研究開発コスト等の反映が中心で、原材料価格の上昇による値上げはほとんど行われていない。 これまで、為替変動を要因とする値上げは行われていない。
被覆資材 (マルチ) 【価格改訂】 年1回	急激な円安による値上げの動きはないが、マルチ等の被覆資材の原料であるナフサの価格が上昇しているため、先月の価格改定でポリエチレン製品のみ約6%値上げされた。(ビニール製品は据え置き)	今後、円安が続いた場合には価格の引き上げ要因の一つとなる可能性がある。
燃 油 (A重油)	急激な円安による値上げの動きはなく、農家がボイラー等の燃料として使用するA重油の価格は、原油価格の下落により値下がりする傾向にある。(原油安で円安の影響が相殺されている状況)	今後、原油価格が反転した場合には、円安と相まって価格が上昇する可能性がある。

(注) 1 価格変動には、原材料価格の国際相場や海上輸送費の変動など、様々な要素が複合的に作用しており、為替変動の影響のみを把握することは困難。

2 配合飼料、肥料、農薬の価格は、年1～4回、定期的にメーカーと実需者との交渉で改訂されており、輸入原料価格の変動や円安の影響の発現にはタイムラグがある。

## 2 県の対応

配合飼料及び燃油高騰については、国の「配合飼料価格安定制度」及び「燃料価格高騰緊急対策」が措置されていることから、今後の価格動向を注視し、十分な予算と実効性ある制度の運用を求めていく。